

国立大学法人総合研究大学院大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

総合研究大学院大学は、人文・理工にわたる多数の基礎学術分野につき、大学共同利用機関法人等が各地に設置する大学の共同利用の研究所その他の機関において、各施設の研究環境を最大限に生かした博士課程教育を総合的に統括実施し、学融合による新学問分野の創出・発展を図りつつ、国際的に通用する高度の研究的資質とともに広い視野を備えた人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、学問分野にとらわれない専門性を越えた総合的な教育研究を行い、創造性豊かな研究者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「フレッシュマンウィーク」等の実施による総合教養教育・専門基礎教育の推進や、統合生命科学の普及に向けた「統合生命科学サマースクール」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

総合研究大学院大学の特徴である高度専門教育を一層推進するため、基盤機関の枠を越えた研究に学生が参画し、自らの専門分野において、新たな視点を獲得できるよう学生参加型共同研究プロジェクトを制度化し、学内公募事業「グローバル共同研究」及び「学融合共同研究」では、学生又は修了生の参加を原則として義務付けることとしているほか、学生が自らのパソコンから、インターネット経由でシステムにアクセスし、シラバスの確認やフィールドワーク中の研究連絡にも活用できるよう「多点高臨場感・TV講義システム (TELAS@SOKEN)」を完成させ、平成27年度から運用することとしている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ **同窓ネットワークの更新による広報活動等の展開**

修了生との連携及び修了生の活躍を把握するための情報収集や、それに基づく情報発信、並びに修了生を含めた学術交流を行うことを目的とし、総研大学術交流ネットワークを総研大同窓ネットワーク(SOKENDAI Anet)としてリニューアルするとともに、在学生の進路指導や修了生のキャリアパスに結び付けるための仕組みの構築を推進している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ **「フレッシュマンウィーク」等の実施による総合教養教育・専門基礎教育の推進**

総研大生として必要な知識・素養の涵養を目的として、学長及び理事との懇談、研究者倫理を含む「科学と社会」の講義等から構成された新入生を対象とした「フレッシュマンウィーク」を実施するとともに、総合教養教育としての内容を充実させ、より一貫性のあるプログラムとして実施するため、履修規程に位置付けた授業科目「フ

レッシュマンコース」を平成27年度から実施することとしている。また、専門基礎教育においては、広い視野を有する研究者を育成するために、コースワーク教育のほか、分野横断型実践教育（ラボローテーション）等の取組を実施している。

○ 統合生命科学の普及に向けた「統合生命科学サマースクール」の実施

専攻及び研究科の枠を越えて実施する特別教育プログラムにおいて、国内外の大学院生と若手研究者に統合生命科学を広く普及させるため、特別講義とセミナーを行う「統合生命科学サマースクール」を実施している。

○ 学生の受験機会の拡充及び修学支援に向けた取組の推進

高エネルギー加速器科学研究科では、全国の高等専門学校を訪問し、学生確保に努めるとともに、学生の受験機会の拡充等を目的として、一般入試に加えて新たに入学特別選抜の導入を平成27年度から実施することとしているほか、基盤機関を設置している高エネルギー加速器研究機構において、諸外国との教育交流の発展に寄与し、同研究科私費留学生在が安心して学業に専念できるよう、修学支援することを目的として、職員等の寄付に基づく奨学金制度を開始している。（平成26年度末で約370万円受入れ）

○ 大学の特性を踏まえた新たな学術ネットワークの構築

大学共同利用機関等で実施している国際連携のリソースを活用しつつ、大学として戦略的かつ組織的に実施するため、担当理事を中心として、アジア各地を訪問し、現地の大学・研究所等で活躍している修了生と懇談するとともに、修了生を介して、これらの大学・研究所等との間で、国際共同研究・教育研究連携について意見交換を行っており、これらの活動を通して、新たな学術ネットワークの構築を進めるとともに、総研大生のキャリアパスへの活用、新たな留学生の獲得につなげる仕組み作りに着手している。

○ 研究所に基盤を置く海外の大学院大学との連携の推進

ベトナム科学院傘下の研究機関を基盤とする大学院大学の学長等を招へいし、葉山本部並びに各専攻においてワークショップを行い、研究所を基盤とする大学の教育研究の新たな可能性やその意義、教育研究の連携、基盤機関としての学生受入れや大学間の学術交流協定の締結を推進することについての意見交換を行っている。